教育家庭新聞

2025年（令和７年）

２月３日

月曜日

第２２６６号

如月・令月・雪消月

サイバーセキュリティ月間
北方領土の日（２/７）
世界友情の日（２/22）

第１月曜日発行

教育マルチメディア号

教育家庭新聞社
発行所＝〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
ＴＥＬ：０３（３８６４）８２４１㈹
ＦＡＸ：０３（３８６４）８２４５
郵便振替口座　１３０９－５３６９３

購読申込み　☎０３（３８６４）８２４１ Eメール kks@kknews.co.jp

ホームページ　https://www.kknews.co.jp/

創刊 昭和36年７月 ©教育家庭新聞社　１部 480円

紙面案内

１人ひとりの学びを活かす学習環境・授業デザインへ

ＧＩＧＡ第２期の環境整備・端末更新が始まり、校務環境のクラウド化による教職員の働き方改革も進んでいる。次の学習指導要領に向けた諮問に対する検討も始まった。日本では世界に先駆けて１人１台端末を全小中学校に配備し、生成ＡＩの教育利用にも着手しているところで、次の学習指導要領では現指導要領で解決しきれなかった面の改善が図られることになる。懸念されている少子化や教員不足への対応についても、環境整備や学び方の進捗、そして対話しながら合意を図るという教育手法が根付くことで解決に向かうことを期待している。

２　面　全国ＩＣＴ教育首長サミット
３　面　新しい学びプロジェクト
４　面　生成ＡＩパイロット校成果報告会
６　面　教育委員会対象セミナー鹿児島
７　面　教育委員会対象セミナー東京
８　面　教育ニュース・教育関連入札情報

■Ｘ（旧Twitter）
@kyoikukatei

■紙面問合せ
✉kks@kknews.co.jp

■購読申込みはこちら→

ＧＩＧＡ環境で校務ＤＸに進捗

教職員働き方改革で制度改正

ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリスト

文部科学省は「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリスト　学校・学校設置者の自己点検結果」を公開した。調査実施時期は２０２４年９月27～11月８日。文部科学省ＷＥＢ調査システム〝ＥｄｕＳｕｒｖｅｙ〟を用いて回答・集計した。調査対象は公立小中学校及びその設置者で９割以上の回答があった。本調査によると、効果実感が高かった校務ＤＸは「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」「教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」「学校内の連絡のデジタル化」であった。

学校において２０２３年度と比較して特に取組が進んだ項目は次。▼児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡についてクラウドサービスを用い、ＰＣ・モバイル端末等から受け付け、集計　▼学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信　学校設置者においては次。▼教育委員会主催の研修アンケート等についてクラウドサービスを用いて実施・集計　▼校務支援システムの導入または次期更改において、次世代型校務支援システムの導入を検討

これらは「完全にデジタル化している」もしくは「半分以上している」（もしくはこれらに相当）の回答割合が大幅に増加しており、かつ効果実感も高い傾向にある。

また、一定以上取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの、取り組んだ学校において教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かったものは次。▼保護者から学校への提出資料を、クラウドサービスを用いて受け付け　▼保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて実施

文科省は本調査結果において「取組の進捗が見られた。『ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリスト』の大多数の項目は、標準的なＧＩＧＡスクール環境（児童生徒１人１台端末、教員１人１台端末、クラウド環境）の下で、必ずしも追加の有償ソフト等を導入せずとも実行可能なもの。各学校・学校設置者において、クラウド環境を活用した校務改善が積極的に行われたことの成果である」としている。

なおデジタル庁による「デジタル改革共創プラットフォーム」（地方公共団体と政府機関の職員であれば誰でも参加することができる、ビジネスチャットツールＳｌａｃｋを活用した直接対話型のコミュニケーションプラットフォーム）には、ＧＩＧＡスクール構想に関するチャンネルがあり、疑問などを投稿できる。校務ＤＸを進める上での疑問点等の解消に積極的に活用してほしいとしている。

取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目

※チェックリストの各項目において「完全にデジタル化している」又は「一部している（半分以上）」（もしくはこれらに相当する選択肢）と回答した学校の割合が40%未満、かつ、教職員の働き方の改善に効果があったと思うかどうかについて「とてもそう思う」と回答した割合が40%以上の項目を抽出。

	一定以上取り組んでいると回答した学校の割合	とてもそう思う	そう思う
①保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	13.5%	48.2%	50.0%
②保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか。	12.7%	46.0%	51.3%
③教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。	39.7%	42.8%	55.8%
④「初等中等教育段階における生成ＡＩの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成ＡＩを校務で活用していますか。	2.6%	41.0%	56.2%
⑤学校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしていますか。	31.9%	40.7%	55.7%

文科省公表資料より編集部作

「ＦＡＸの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常業務でＦＡＸのやりとりを行っている相手先（複数回答）

民間事業者	68.5%
自校以外の学校	46.0%
教育委員会	42.7%
役所・役場	30.5%
給食センター	26.7%
ＰＴＡ関連組織	17.8%
教科等の研究団体	14.9%
中体連	10.1%

制度改正で働き方改革へ　新たな職も設置

文科省は教職員の働き方改革の加速に向けて、制度改正を検討している。働き方改革を見える化し、ＰＤＣＡサイクルを構築するため、各教育委員会において、教員の業務量の適切な管理と健康・福祉を確保するための措置を実施するための計画の策定・公表、計画の実施状況を公表すること、本計画を総合教育会議に報告すること、学校運営に関する「基本的な方針」に、業務量管理・健康確保措置の実施に関する内容を含めること、学校のマネジメント機能の強化に向けた「新たな職」の創設などを検討。

新たな職では学校内の多様なスタッフや、地域・関係機関など、学校内外との連携・調整に関する業務を担うこと、若手教員のサポートを担うことを想定している。

学級担任の職務の重要性と負担等に応じた加算も制度化する考えだ。

文部科学省　初等中等教育局

教育課程課 武藤久慶 課長

次期学習指導要領の検討が始まった。武藤久慶教育課程課長は「背景を押さえ、見通しをもって『今』を改善したい」と題し、ＧＩＧＡスクール時代の学習指導要領改訂について講演した（全国ＩＣＴ教育首長サミットより。詳細２面）。

課題をデータで深掘りする

２０２４年９月に公表した学習指導要領の改訂に向けた論点整理を踏まえ、12月25日、中央教育審議会に諮問した。諮問では現在の学校教育で顕在化している課題について、次の３つに整理。課題に取り組む上で教員の努力と熱意に対して過度な依存をすることはできず、持続可能な日本型学校教育を追求していく必要があると考えている。

■学びに向かうことができていない子供

年々増加傾向にある不登校の子供たちをはじめ、学びに向き合えていない子供や学びを継続できない子供が増えている。

そのような子供の理解や学力、そして認知特性や行動面で著しい困難を示す子供の割合は小中学校８・８%、高校２・２%である一方、大学の発達障害学生の在籍率は０・32%に過ぎない。なおアメリカにおけるＡＤＤまたはＡＤＨＤの学部学生率は15%である。それぞれ異なる調査の結果であるため単純な比較はできないが、多様な認知特性をもつ子供たちが初等中等教育の中で自分なりの学び方を獲得できず高等教育に接続できない現状が示唆されているといえる。

ＧＩＧＡスクール時代の学習指導要領へ

ＧＩＧＡ第１期で大事にしてきたことを前提に、多様性を包摂するために教育課程上の特例を設けること等を検討する。

■学習指導要領の浸透が道半ば

現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばであると感じている。

ＰＩＳＡ２０２２調査によると多くの生徒が自律的に学ぶ自信がない。

また、概念としての知識の習得や実感を伴った深い意味理解も十分でない。

例えば、関数は「わからない数字があった時、伴って変わる別の数との関係を表せれば、わからない数字を予測できる」ものだ。グラフを書くという個別の技能にとどまらず「一次関数を使えば未知の数字を予測できるんだ」という理解と感動を感じることができるような学びが必要である。

「これまでの日本の学校教育では自分の考えを述べる訓練をほとんどしていない。スピーキングが苦手なのは英語力の問題ではない（日野田直彦『東大よりも世界に近い学校』）と指摘されているように、自分の考えを書くことが苦手であったり、そもそも自分の考えをもっていなかったりという子供もいる。

また、18歳の当事者意識は改善傾向にあるが、「将来の夢を持っている」は依然として横ばいだ（日本財団・18歳意識調査）。「夢を馬鹿にすると路頭に迷う時代。自分で何をするか決める仕事は残り、人から言われてやる仕事はＡＩに取って変わられる（川村秀憲『10年後のハローワーク』）」との指摘もある。

「自分で何をしたいか」をもっていないという状態を改善していけるような学びが求められている。

（２面に続く）

文科省ポータルサイト　高校の学びを伝える「マナビカエル」

奈良女子大学附属中等教育学校　茨城県立ＩＴ未来高等学校を公開

文部科学省は、全国の高校の学びの姿を伝えるポータルサイト「マナビカエル　高校の学びを次の時代へ」を公開している。高校の特色化や魅力化についてインタビューを中心にした「聴く」、専門高校のデジタル教材や最先端のデジタル対応機器等の活用事例を「知る」の２種類だ。１月末、奈良女子大学附属中等教育学校が「聴く」、茨城県立ＩＴ未来高等学校が「知る」に公開された。

奈良女子大学附属中等教育学校は「企業連携、大学連携」「探究に強い教員養成」「学校の枠を超えた学びの場の検証」をキーワードに、６年一貫の共創型探究活動に取り組んでいる。２０２０年度から始まった企業・大学と連携した「リベラルアーツ型探究」では企業から「ものづくり」の観点を学び、新製品を企画・提案。奈良教育大学の学生や院生も参加して「探究に強い教員養成」につなげている。

「情報科」の専門高等学校である茨城県立ＩＴ未来高等学校では、10月に「美しい菊を咲かせる」ことをミッションに、入学したばかりの１年生が各種センサーとマイコンボード「Raspberry Pi Pico」、プログラミングソフト「Thonny」で「自動潅水装置」の開発に挑戦。プログラミング未経験の生徒も多く時間の制約もある中、教員の工夫や教材のアイデアでどのようにミッションを達成したのかについて聞いている。▼詳細＝https://www.mext.go.jp/manabikaeru/

新連載　GIGA第２期の個別最適な学び

②PBLロードマップをベースにした端末活用　～小郡市立味坂小学校の取組から～

Ｗｅｂ会議を活用してレシピを提案する様子

小郡市立味坂小学校（江上征一校長・福岡県）では、ＰＢＬやＳＴＥＡＭ教育の視点を取り入れ、１人１台端末を活用した探究的な学びやＰＤＣＡサイクルを機能させる組織運営等を進めている。また、小郡市教育委員会（秋永晃生教育長）は、福岡県教育委員会の「情報活用能力育成」の研究指定も連動させ、ＧＩＧＡ第２期の取組を展開している。

味坂小では、ＰＢＬロードマップを開発し、それらの教材をベースにした探究的な学びを進めている。「学習計画シート・手引き」、「学習の進捗管理ツール」、「学びの足あと・ポートフォリオ」の３つをクラウド上で活用できるようにした。「学習計画シート・手引き」は、課題解決の見通しをもつことができるようにミッション達成までのＰＢＬの過程を示すものだ。「学習の進捗管理ツール」では、取り組んでいる過程に目印となるカードを配置させ、教師や他者と進捗を共有することができるようにした。「学びの足あと・ポートフォリオ」では、各学習過程で、学んだ記録や成果をカード連結して、クラウド上で配置できるようにした。

写真は、５年総合的な学習の時間で、児童が新たなレシピをもとに調理し、野菜市場の従業員の方々から意見をもらい改善を検討している場面である。子供たちは、試行錯誤しながら創造的に社会課題の解決策となる納得解を見いだす探究的な学びを進めている。

※ＰＢＬ（Project Based Learning）＝プロジェクト型の探究学習

中村学園大学 教育学部　山本朋弘 教授

「教育家庭新聞 教育マルチメディア号」購読申し込み書

「教育家庭新聞教育マルチメディア号」は毎月１週に発行します。メール便でお届けします。電話・ＦＡＸ、またはＨＰからもお申し込みいただけます。
購読者には、新聞紙に加えて、読者専用WebページにアクセスできるｉＤとパスワードをお届けします。
1. 電話 03・3864・8241（弊社販売部）　2. FAX 03・3864・8245
3. ホームページアドレス https://www.kknews.co.jp/　（１部 480円）

お申し込み書（年間12回5760円）		
お名前		
ご職業		
ご住所	〔自宅・通勤先〕（どちらかに○を）　（〒　－　）	
連絡先	電話　（　）	お支払方法 ご連絡を頂き次第、郵便振替及び銀行振込の用紙をお送りします。どちらかでお支払いください。
	FAX　（　）	

ELECOM

iPadケース一体型のキーボード

キーパレットフォリオ

KEY PALETTO Folio

製品動画はこちらをチェック

製品詳細はこちらをチェック

教育現場でキーボードを使った学習の際に、このような課題はありませんか？

誤入力や誤操作による子どもの混乱

先生と生徒のミスコミュニケーション

紛失や故障

机にスペースが確保できない

それ、キーパレットで解決できます！

学習がすすむ工夫
- わかりやすいキー配色
- 指にフィットする凹み
- 押しやすいキー間隔（17mm）

学習環境にフィット
- 一体型でコンパクト設計
- タブレットと分割して使える
- iPadが容易に外せないロック機構

高い耐久性
- MIL規格(落下)試験をクリア
- いたずら防止 キーへのペン挿し防止
- スタンドの耐荷重性能

エレコム株式会社 www.elecom.co.jp

法人様専用営業サポート TEL.0120-975-579　受付時間　9:00～18:00　月～金（祝・祭日、夏季、年末年始特定休業日を除く）